

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和８年度 第１回高松市部活動地域展開推進委員会
開 催 日 時	令和８年５月１５日（金）１４時００分～１５時５５分
開 催 場 所	高松市役所防災合同庁舎 １３階 大会議室
議 題	１．委員長の選出について ２．令和８年度の取組について ３．「（仮称）地域クラブ活動たかまつ」実施計画（案）について
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	米村委員、北堀委員、山地委員、仁谷委員、宮武委員、辻委員、大西委員、近藤委員、西山委員
傍 聴 者	１０人（定員 １０人）
担 当 課 及 び 連 絡 先	保健体育課 ０８７-８３９-２６５７

会議の経過及び結果

会議の成立の報告、教育長挨拶、会議公開の確認の後以下の議題について協議した。

（１）委員長の選出について

高松市部活動地域展開推進委員会設置要綱第５条第１項及び第３項の規定に基づき、委員の互選及び委員長の指名により、委員長及び職務代理を決定した。

委員長 米村委員

職務代理 仁谷委員

（２）令和８年度の取組について

事務局から説明 Ｐ３：部活動指導員、部活動地域展開支援コーディネーター

Ｐ４：実証事業（運動・スポーツ）

（２）についての質問

（委員）

実証事業（体験会）の対象となる１２種目について、応募がどの程度あるかまだ分からないと思うが、１２種目揃うのか、逆に、応募が多数となった種目については、その中で実証事業を実施するクラブをどのように決めるのか。

また、実施場所について、部活動が行われている時期の実施となるため、中学校施設の利用の調整をどのように考えているか。

（事務局）

市としても、すべての種目にバランスよく地域クラブの応募があり、認定できるかどうかはわからないと考えている。実証事業の実施時期は地域クラブの登録申請があつて、認定が一定程度終わっている時期になるため、認定したクラブについては、原則、体験会を行っていただこうと考えている。また、応募が少ない種目については、こちらから地域の指導員等に働きかけて、体験会を行ってもらい、地域クラブの立ち上げができないかを検討していただくなどの対応をしたいと考えて

いる。

実施場所・時間等については、まだ未調整ではあるが、地域クラブの申請の際に、どの施設をいつ使用したいかという希望も出してもらうので、それを踏まえた上で、市教委の方で中学校施設の利用可能時間を取りまとめ、空いている時間の中で、地域クラブに体験会を行ってもらうという方向で調整したいと考えている。

(委員)

文化系の部活動については、実証事業は行うのか。

(事務局)

文化系の部活に関しては、吹奏楽に関して、令和6年度に1校で1つのクラブとした場合、令和7年度に複数校で1つのクラブとした場合の実証、比較を行った結果、複数校で1つのクラブとした場合には、楽器の移動等、生徒の負担が大きく、それ以外にも楽器の保管等、様々な困難があったということで、できれば1校で1つのクラブという形の方がよいのではないかと結論を得ている。

令和8年度に実証事業を行う予定はない。

(委員)

小学生も体験会に参加できるとのことだが、この体験会に参加したことで、中学生になったときに当該地域クラブへの参加が決まるというわけではないという認識でよいか。

(事務局)

その認識で相違ない。体験会という形なので、一人が1つの体験会、1つの種目というわけではなく、複数に参加することも可能としたいと考えている。また、進学予定の中学校や校区以外が会場となる体験会に参加することも可とする予定である。

(委員)

地域クラブの集まりについて、見通しはどうか。令和9年9月からの活動開始であれば、地域クラブの確保に関しては今年度中の取り組みが重要であると思われるが、どのような取り組みを考えているか。

(事務局)

実際にどの程度の数の地域クラブが応募してくれるかは不透明であるが、これまでの問合せ等の中で、地域クラブを立ち上げてもらえそうなところも少しずつは上がってきている。

地域クラブの確保は重要な課題であり、今年度は、コーディネーターはもちろん、市教委としても個別のクラブや協会に足を運び、9月の地域クラブの募集に向けて働きかけていく予定である。

(委員長)

市内で地域差もあるとは思いますが、中学生が通える範囲内での地域クラブの保障ができればよいと思うので、引き続き、取り組みや検討をお願いします。

(3) 「(仮称) 地域クラブ活動たかまつ」実施計画(案)について

事務局から説明 P 5 ～ P 1 0

別紙『(仮称) 地域クラブ活動たかまつ』実施計画(案)』

(3) についての質問

(委員)

中学校体育連盟(以下、中体連)等の主催する大会等への参加について、「参加を希望する地域クラブは香川県中学校体育連盟事務局へ必要な書類を提出し…」との記載がある。現在は、県の中体連に提出するものを、地区の中体連が取りまとめて、県に提出しており、今後、高松地区のクラブ数が増えるにより大変になるという話を県ともしているところだが、地域クラブへの移行後は、地区の中体連を通さず、県の中体連に直接提出するようになるのか。

(事務局)

実施計画(案)では、最終的に県の中体連に提出するという事で「香川県中学校体育連盟事務局へ」と記載したが、実務として地区の中体連を通すかどうかについては、市の方も相談に乗るが、中体連の方で詰めてもらいたい。

(委員)

県の中体連の事務局の方も、教員が担当しており、公務もある中、手がいっぱい、地区の中体連で行っていたものをすべて県にお願いすることは難しいと聞いているため、地区中体連としては非常に困っている状況である。

また、中体連がどうなるのか、競技の中心となる専門員がどうなるのかといったことに関しても地区の中体連の会の中で様々な意見が出て来ている。9月の新人研修の時期くらいには、方向性を示していきたいと考えているが、県の中体連、地区の中体連、市教委も交えて話す機会等を持っていただきたい。

(事務局)

検討する。

(委員)

実施計画(案)の中で懸念を感じるところが4点ほどある。

1点目は費用負担について。「なお、その負担額は地域クラブごとに設定するものとします。」との記載があって、地域クラブが自由に、ある程度高額な価格の設定ができるように見えてしまう。後ろのほうには、国のガイドラインにもあるような「できるだけ低廉な額の設定」の記載はあるが、それが伝わりにくいのでは。

2点目は教職員の兼職兼業について。高松市が先行して兼職兼業等の判断を行ってくれることはありがたいが、実施計画(案)の中には、その場合の指導者の謝金に係る市や県、国からの補助についての記載がない。

高松市以外の、部活動が継続する、つまり、教職員がボランティア的な側面を含め、部活動指導手当等によって指導を担う地域に比べ、地域クラブに移行し、指導者の謝金が発生する高松市は、保護者の経済的負担が増える。

こういった先行地区とそれ以外の地区との調整のために、国から何らかの支援があるのではないかと考えているが、1点目の価格の設定も含め、国や県・市が、どのあたりまで経済財政的な支援

が可能なのかというのも書ける範囲で書いた方がいいのではないか。

3点目は中学校施設以外の活動場所について。「ただし、中学校施設以外については、地域クラブにおいて確保してください」との記載があり、これでは、何らかの理由で中学校施設が使えない場合には、別の活動場所を、地域クラブが自力で確保しなければならないように読める。

地域クラブが立ち上げやすいような環境を整えるという意味でも、市で、ある程度中学校施設以外の活動場所を整える、また、そのことを市の役割として記載することはできないか。

4点目は活動時間について。「平日は16時から21時まで」と記載があるが、テストの最終日のように市内全域や、近隣の多くの学校で半日授業というような日があることもある。そういった場合には午後から活動できるように、例えば、「原則」という単語を入れる等、柔軟な対応ができる記載としてはどうか。

この場での回答は不要であるが、校長会とも擦り合わせ等、お願いしたい。

(事務局)

校長会等との連携を取りながら検討したい。また、Q&A等でお示しできるものについては示していきたい。

(委員長)

他の市町村との格差、不公平感、また、中学校施設を使うところとそうでないところの不公平感というのも、もし、解消できるのであれば、地域クラブへの参加が容易になると思うので、検討していただければ。

(委員)

これまでの話の中で、この、部活動の地域展開については「全庁をあげて取り組む」と言われてきたと思う。今後、準備はもちろん、運用が始まってからも多くの、また、様々な問題が発生してくると思われるのでぜひ、「準備室」等の、スポーツ系も文化系もまとめた組織を作してほしい。

また、大会運営については先ほどの中体連の話にもあったが、今後、大会がどうなるのか、どのように参加できるのかというのは子どもたちにとって非常に重大な問題であると思う。中体連、市教委、校長会等での早急な協議をお願いしたい。

3つ目として、中学校施設の利用だが、すでに学校開放で一般の方が利用されている学校もあるためその調整も必要となってくると思われるが、どうか。

(事務局)

組織体制については、全庁的に庁内連絡会というものを立ち上げて、課題の共有を図っており、そこを活用しながら進めている。

大会運営についても、非常に難しい問題であり、中体連、教育委員会、校長会と一緒に考える必要があると認識している。

(委員長)

今後、地域クラブの認定等、業務は増えていくと思われるので、一つの部署に負担が偏ることなく、持続可能な組織づくりをお願いしたい。

大会運営については、現状、教職員の方が担っている部分を、一部、地域クラブの方に移譲していく等も含め、擦り合わせをお願いする。

学校開放との調整については、多世代にわたる活動という観点から、利用している一般の団体と

合同で活動する仕組みづくりなど、お互いにとってよりよい環境になるよう議論できれば良いと思う。

（委員）

現状、部活動の部費をどのようにしているかはわからないが、今後、地域クラブで徴収となると、現在の記載では「負担額を払えない子どもは地域クラブに参加できない」ように読み取れてしまう。そういった子どもたちが参加できるよう、市の助成などができないか。

（事務局）

生活困窮世帯の生徒への支援については、現在検討中である。この実施計画（案）は、基本的な考え方を示しているものなので、具体的な補助の内容を入れるのは難しいと考える。内容が決定次第、別途お知らせしたい。

（委員）

具体的な内容は記載しなくてもよいが、例えば、「市からの補助や支援については別途定める」というような一文があれば、地域クラブを作ろうかと考える方にとっても、大きいと思う。

（委員長）

今の意見を踏まえ、多くの方がクラブの展開の方に参加できるような工夫をしていただきたい。また、中学校施設の利用により、会場費等、抑えられえる面もあると思うのでそういったことも記載に入れてはどうか。

（委員）

地域クラブの参加者として、高松市内在住の中学生のほか、「その他の参加者については、各地域クラブが個別に設定する」とあるが、市外の子を想定してるのか。

（事務局）

市外の子も想定している。学校によっては、坂出市やさぬき市が近いようなところもある。また、将来的な話としては、少子化の中で他市とも協力し合っていかなければならないということで、高松市としても高松市の子の参加はもちろんだが、市外の子を受け入れられる土壌を作りたいと思っている。

（委員長）

広域化、過疎地域のフォローアップの観点もあるようだが、一方で強化に向けて中学生を集めるといったことがないよう、気を付けてほしい。

（委員）

地域クラブのスタッフの配置について、地域クラブが大会やコンクールに参加する場合には、その指導員は大会運営に協力する旨の記載がある。

大会運営について、現状は審判を含め、教職員が中心となっており、それ以外の方には派遣依頼を出し、謝礼を払っている。今後、部活動がなくなり、顧問の先生という立場でなくなった教員の方からは、なぜ大会の審判等に行かなければならぬのか、という声も出てくると思われる。そうであれば、教職員の方に依頼を出していく形になるのか。教員へも謝金は発生してくるのか。方向性だけでもいいので、わかる範囲で教えていただきたい。

（事務局）

審判等、大会運営に必要で、来てもらいたい教職員には依頼を出すのか、謝金等を出すのかとい

う点については検討が必要である。そもそも運営自体をどのようにするか、例えば中体連が今後もし残って運営をするのかといった点も含め、一緒に検討していきたい。

（委員）

吹奏楽について、学校単位でのクラブを検討しているとのことであったが、具体的な案はあるか。学校単位を基本にとすると、例えば、今の学校の顧問の先生や赴任してくる先生に「この先生は地域クラブをやってくれるのか」というような圧力がかからないか。

（事務局）

先の回答での「学校単位」というのは、スポーツ系の地域クラブのように、例えばブロック割りの中に各種目の地域クラブがあり、それぞれの地域クラブに当該ブロックの中の複数の中学校の生徒が参加するような形ではなく、それぞれの中学校に、そこで活動する地域クラブができるのを可とする、という意味であって、必ずしも1校に1つ、地域クラブを作るということを前提としているものではない。

もともと、吹奏楽部員が少なく、1校では活動できない場合もあるし、中学校以外で、例えば公民館とかコミュニティセンター等で楽器の保管が可能であって、そこで活動するクラブが設立できるというような場合にはそれもありだと考えている。

ただ、地域クラブ化に向けて話をしている中では、楽器の指導はできても何十人の楽団となると難しいとか、会計等の事務作業が負担であるとかいった面で、すぐにクラブの立ち上げができません、やります、というのは難しいという声もある。教職員も含めてうまくマッチングができないのか、検討しているところである。

（委員）

費用の面でも吹奏楽は大変だと思われる。楽器の購入や修繕については、参加者負担だけで賄おうとすると、試算では月、1万5千から2万の参加費が必要になる。

日本の音楽シーンの多様さは、中学校での吹奏楽部から始まっていると私は考えていて、ぜひとも吹奏楽クラブという形は残していきたいと思っているところである。音楽を大事にするまちということを市長も言っている中、そのためには市長部局の文化芸術振興課など、音楽を所管する部署にも予算や人員を含め、検討の中に入れていただきたい。

（委員）

活動時間について、21時まで、というのは、指導者確保等の面からはありがたいことである。

一方で、保護者にとってみれば、送迎が必要な時間になるということで、遠くて行けないというような地域間格差、送迎ができないからいけないというような家庭・経済状況での格差が出ないようにしていただきたい。

（委員）

費用負担について、例えば指導者の謝金の一部を市が負担するといったような支援があれば、地域クラブの立ち上げの話をもっともって行きやすい。

ほかにも、補助についてであるとか、施設の利用についてであるとか、そういった市からのアナウンスをもっと行ってほしい。

あと、地域クラブごとの個性・特色と公平性との話で、現在は、それぞれの地域クラブの個性をだす形で話をしているように思うが、地域性や活動場所、価格設定等についてある程度、統一したルールを設定した方がいいのではないかな。

(委員長)

同じ種目の地域クラブが多数手をあげてきたような場合には、生徒の取り合いのようなことも発生する可能性もある一方で、コントロールしすぎると、中学生の方の選択肢を狭めてしまうことになるので、バランスをとるのは難しいと思うが、そのあたりも視野に入れて検討を進めてほしい。

(事務局から、今後の予定について説明)

(委員長)

クラブの認定の要件等々、柔軟に、あるいは適宜、検討を行う必要があるだろうし、安心・安全といった指導者管理がおそらく重要になってくると思う。それを支える行政の関係各課の調整や費用面の要望もあったので、ぜひその辺を検討いただきながら、よりよい部活動の地域展開ができるように、さらに協議等々進めていただければと思う。

これで本日の議題は以上で全て終了となる。

(事務局)

協議いただいた内容を、今後の地域展開に向けた取組みに生かしていきたい。生徒も大人も満足できるためには課題が山積しているなので、課題解決しながらスムーズな地域展開ができればと思っている。

(閉会)